

加工食品の原料原産地 表示制度について

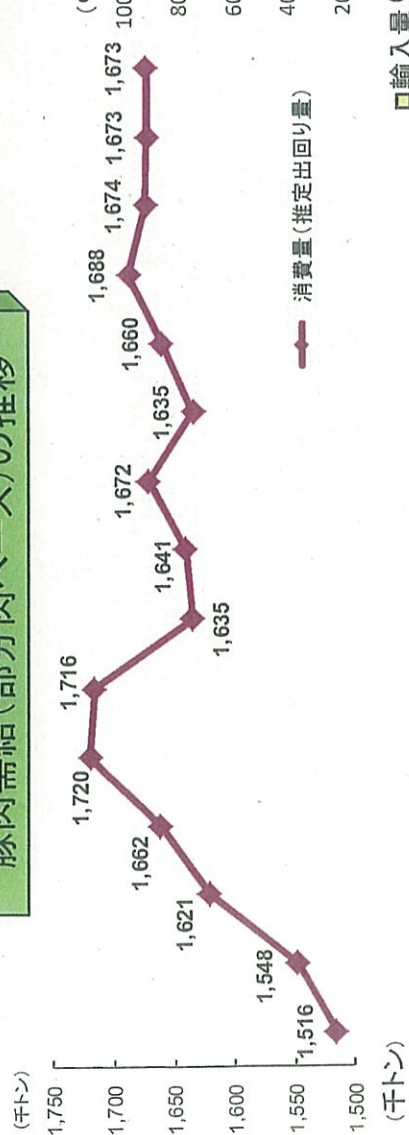


平成28年4月27日
一般社団法人 日本養豚協会 (JPPA)
会長 志澤 勝

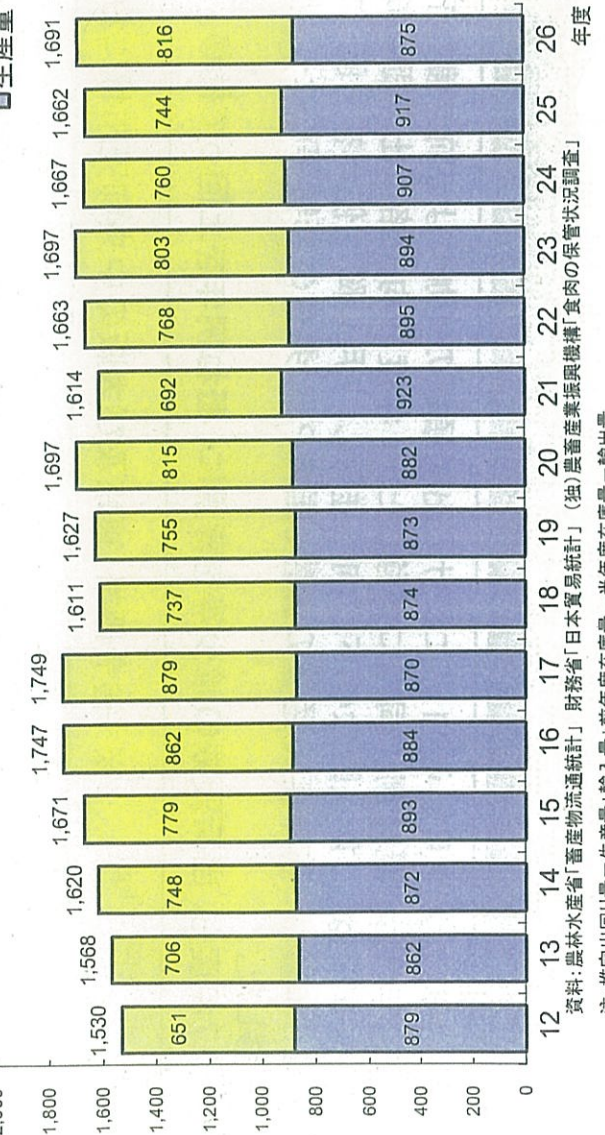
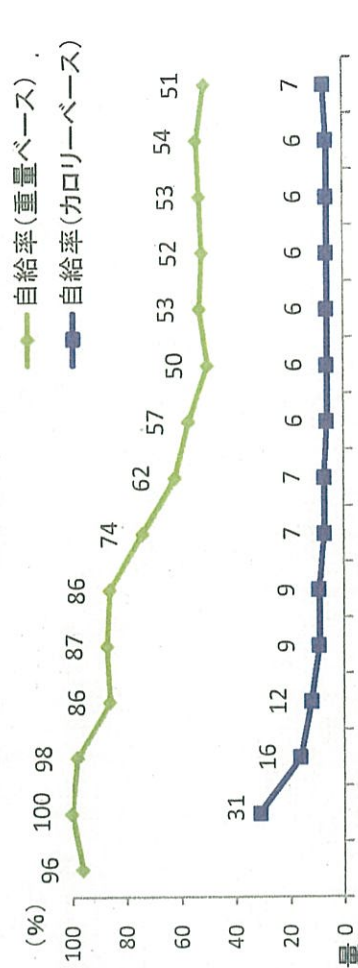
豚肉の需給動向

- 豚肉の消費量(推定回り量)は、BSEの発生や高病原性鳥インフルエンザの発生に伴う牛肉・鶏肉からの代替需要により16年度まで増加。
- 18年度は代替需要が概ね一巡したこと等から減少し、その後は増加傾向で推移したが、近年は概ね横ばいで推移。

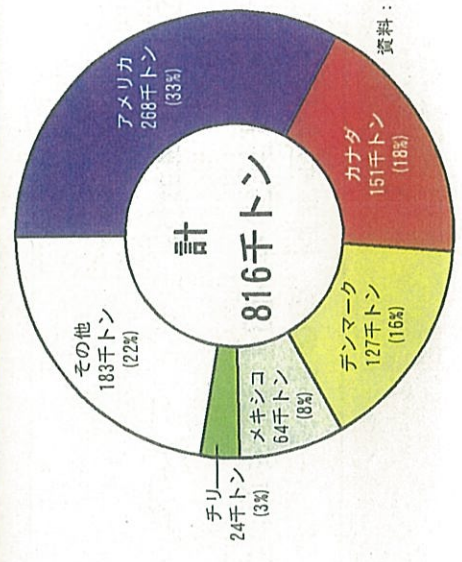
豚肉需給(部分肉ベース)の推移



豚肉の自給率の推移



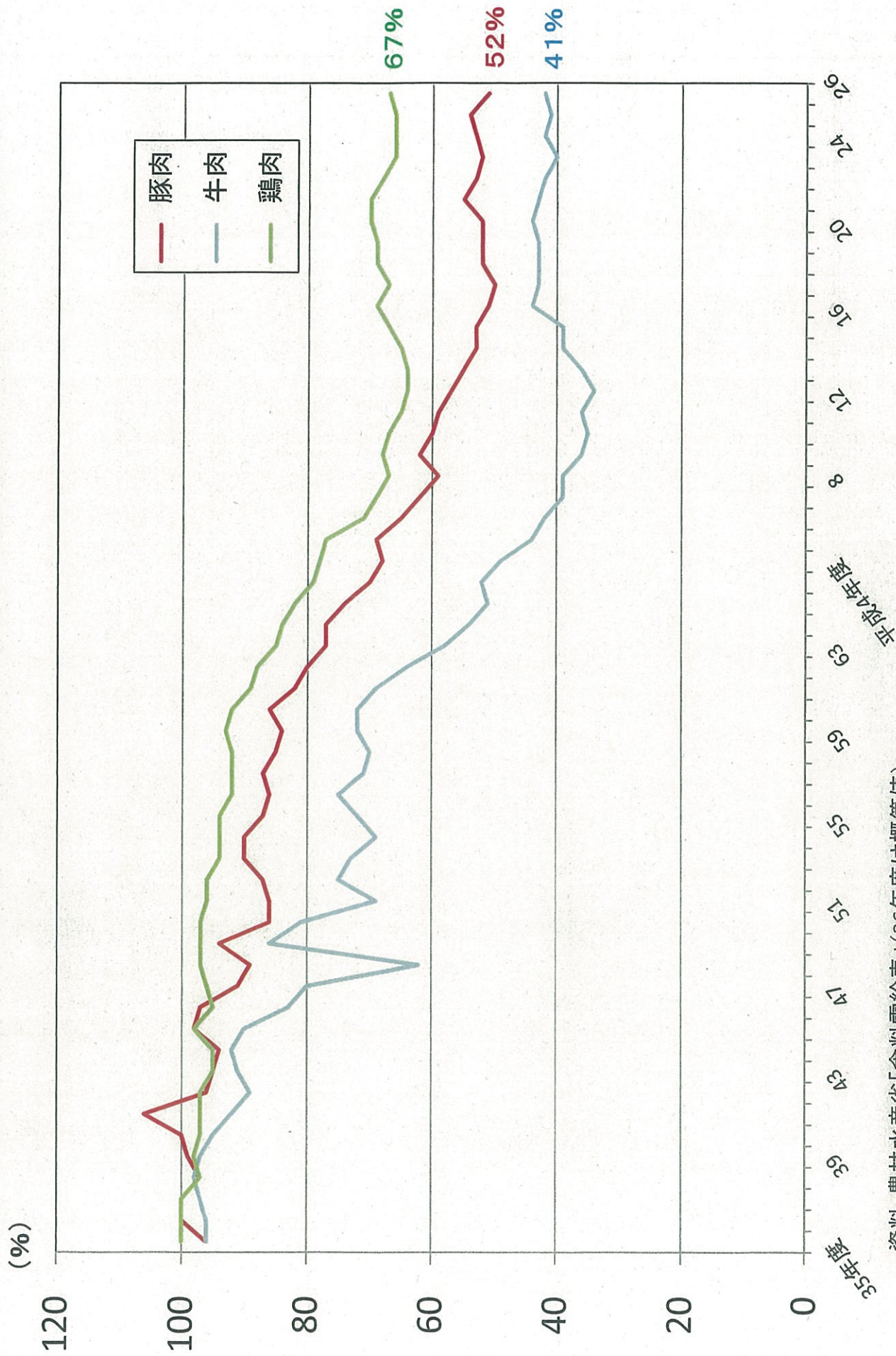
国別輸入量(部分肉ベース)平成26年度



資料：財務省「日本貿易統計」

資料：農林水産省「畜産物流通統計」 財務省「日本貿易統計」(独)農畜産業振興機構「食肉の保管状況調査」
注：推定回り量＝生産量+輸入量+前年度在庫量－当年度在庫量－輸出品

食肉の自給率の推移

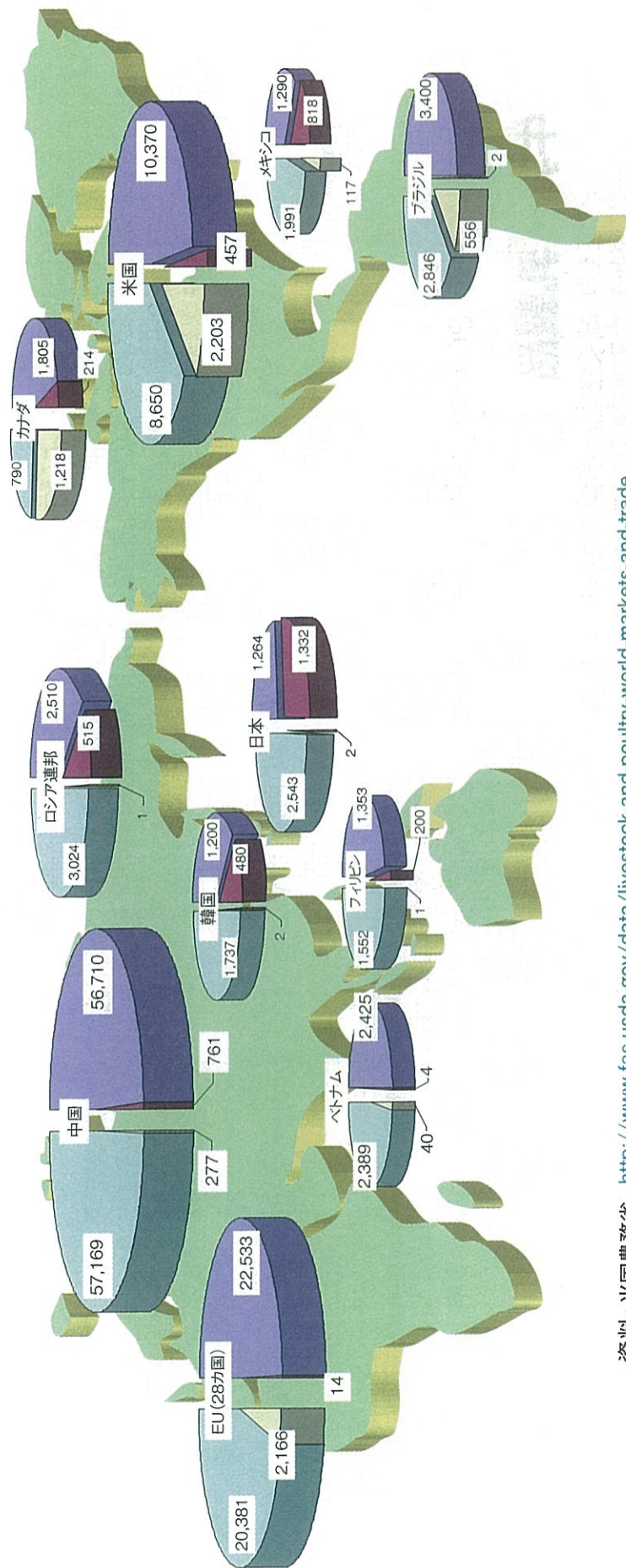


資料: 農林水産省「食料需給表」(26年度は概算値)

豚肉



消費量(千トン)
 生産量(千トン)
 輸出量(千トン)
 輸入量(千トン)



資料：米農務省 <http://www.fas.usda.gov/data/livestock-and-poultry-world-markets-and-trade>

注：2014年データを基に作成、数量は枝肉換算ベース。

2014年の世界の豚肉生産量は、1億1727万トン（枝肉換算ベース、FAO Food Outlook、2015年10月）と見込まれる。主要生産国（国別データは米農務省）は、中国（5671万トン）であり、これにEU28カ国（2253万トン）や米国（1037万トン）などが続く。EUや米国は生産量に占める輸出量の割合が高く、東アジアを中心に輸出量を増加させている。新興国では、経済成長に伴いブラジル（340トン）、ロシア（251万トン）、メキシコ（129万トン）の生産量が増加している。中国以外のアジア地域では、ベトナム（243万トン）やフィリピン（135万トン）などの生産量や消費量が多い。日本は生産量が126万トンであるが、消費量のおよそ半分の133万トンを輸入しており、世界全体の輸入量の約2割を占める最大の豚肉輸入国である。

平成 26 年次 食肉の消費構成割合

「食肉の消費構成割合」については、畜種ごとの消費構成（推定出回り量のうち、「家計消費」、「加工仕向」、「その他（外食等）」の割合を算出。）の実態を把握するとともに、食肉の安定供給に資することを目的として算出、公表しています。

26年次については、以下のとおりです。

○ 平成26年次 食肉の消費構成割合

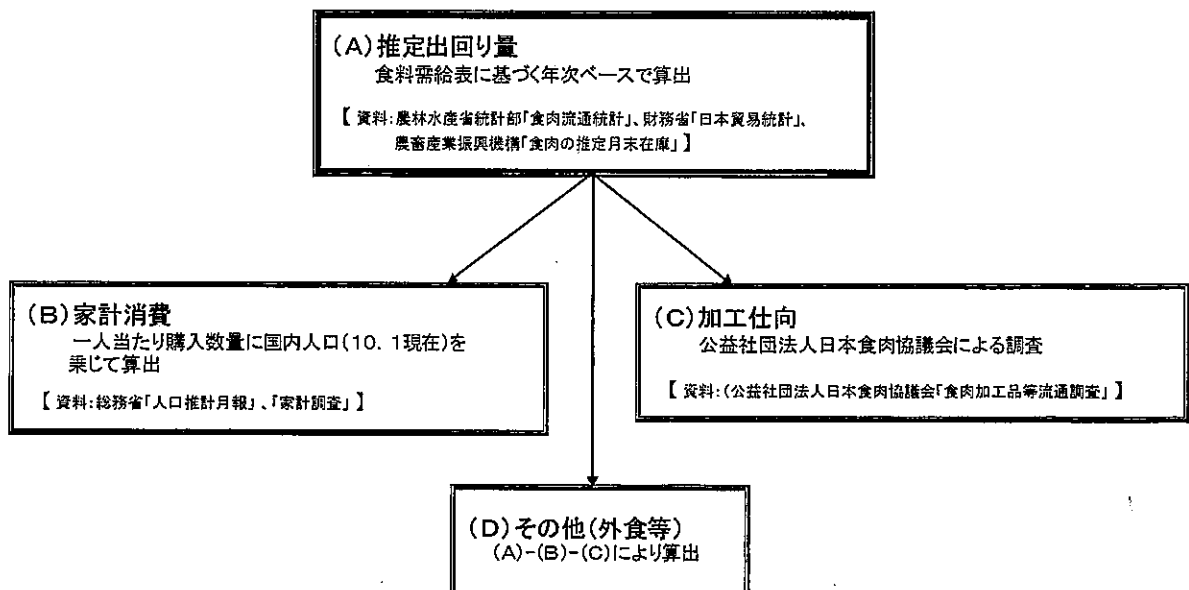
（単位：％）

	家計消費	加工仕向	その他 (外食等)
牛 肉	3 2	5	6 3
豚 肉	4 8	2 4	2 8
鶏 肉	4 1	6	5 3

※構成割合の算出方法

「推定出回り量」を分母に、形態別の消費量（「家計消費」、「加工仕向」、「その他（外食等）」）を分子にして、それぞれ割合を算出。

（参考）



家計消費割合 = B / A

その他割合 = $(A - B - C) / A$

加工仕向割合 = C / A